



UNESCO World Conference on Education for Sustainable Development  
Stakeholder Meeting

# UNESCO ESD YOUTH CONFERENCE

7 November 2014 • Okayama, Japan

## ユース・ステートメント

このユース・ステートメントは2014年11月7日に岡山市において開催されたユネスコ ESD ユース・コンファレンスの成果であり、「ESDに関するグローバル・アクション・プログラム (GAP)」に沿って2015年以降もESDを推進するため、ユースのビジョン、コミットメント、そして提言をまとめ、採択されたものである。

本ステートメントは、世界中の何千人もの若者を代表して会議に出席したESDを実践する50名の若いリーダーたちの声を反映しているだけでなく、会議前に行われたオンライン・ディスカッションを通じて集められた100名以上のユースの意見を含んでいる。

# 持続可能な未来に向けたビジョン

このステートメントを読むにあたって、まず心の中にあなたが愛している人、例えばあなたの子どもやその子ども、そしてその後続く子どもたちのことを思い浮かべていただきたい。そして想像して欲しい—今日の私たちの決意が、周りの一人ひとりにどれだけのインパクトを与えるのかということ。そして、さらに考えてみてほしい—このユース・ステートメントが彼らの、そして私たちの生命にとってのもつ重要性や価値を。

私たちのステートメントは、広くこの世界的な呼びかけに応えてくれた世界中の何千ものユースの声やビジョンから生まれた力強いものである。例えば、マダガスカル環境教育者の経験や、バーレーンで行われている創造的なバイオミクリーのアプローチ、タイの先住民の若者の支援や、モルドバでの先進的なゲームを用いたプラットフォームなど、様々な活動に取り組む若者の声を反映している。私たちのこれまでの道のりは様々ではあるが、目指しているものは一緒であると感じている。私たちは異なる背景をもち、国籍も肌の色も、宗教も信条も多様ではあるが、私たちのビジョンは一つであり、私たちの声はこの一つのステートメントにまとめられた。

私たちは共に、持続可能で、強靱かつ平等な社会、一人ひとりが自らの目標に向かい進んでいける機会のある世界の実現に向けて立ち上がる。私たちは、持続可能な開発のための教育（ESD）がこのビジョンを実現するために根源的なものであると強く確信している。ESDは社会に活力を生み出す方法であり、私たちの直面する深刻な持続可能性に関する課題を機会に変えていくものであると信じている。ESDは教育に欠かすことのできない要素であり、ESDなしでは前進できないのである。

若者たちは、ESDのアジェンダを前に進めていく上で欠かせない役割を果たす。私たちの決意と行動が、私たちの現実や未来を形作っていくことになるのである。私たちはこれをリーダーとして進めていく強い意志を持っているが、私たちだけでも、またあなたたちだけでも、実現することはできない。**私たちは共に手を取り合い、地球上の若者たちを支援し、動員していく必要があるのだ！** このステートメントは、そのための提言を、ユネスコの提唱するESDに関するグローバル・アクション・プログラムの趣旨に沿う形でまとめ、提案するものである。

私たちは、ここまで私たちを導いてくださった先駆者の方々の取り組みと努力に対し、感謝の意を表すと共に、一刻も早くこれらの提言に対して広範かつ多様なステークホルダーが協力し、共に動き出してくれることを求める。私たちの多くにとっては、この道のりは始まったばかりであり、今まさに始めようとしている方々にも共に歩いてほしいと望むものである。

## 提言

### 1. 政策的支援

- a) **政策の立案、実行および評価におけるユースの積極的な関与を確実なものとしていくこと。** ユースは教育におけるどの分野、段階においても重要なステークホルダーとして認識されるべきである。それにより、ユースはESDの強化に向けた政策の形成に貢献できるようになる。
- b) **ESDに関する政策に早急に取り組み、包括的かつ公平で、性別にも配慮したものとすること。** 政策は、持続可能な開発に関する多面的要素を考慮したものであり、かつ今ここで持続可能な開発を実現すべく即座の行動を促すべきである。
- c) **関係するあらゆるステークホルダーは、ESDのための変革推進者であるユースの強化のために資源を割くこと。** 政府、市民団体、青年団体やコミュニティおよび企業は、この宣言にある提言とESDに関する政策の実行のために、金銭、技術および人材などの資源を提供するべきである。

## 2. 機関包括型アプローチ

- a) **教育機関や政府は、持続可能な社会の実現を目指す若者たち主導のプロセスに対して施設支援、資源の提供、そして活動への正当性を与えること。**これについては下からの自主性と上からの指揮の両面が必要である。仕組みとしては、ユース主導の活動に対し、資金の支援、制度的統合、働くスペース、権限および正当な評価、そして必要な訓練の提供が含まれる。
- b) **持続可能な社会の実現を目指す取り組みの協働を加速させること。**教育機関は、生徒、学生、職員、地域コミュニティなどが一緒に取り組むことに対して支援するべきである。そのためにも関係者内で共有されるビジョンやアイデンティティ、出会いの場やプロジェクトが必要となる。
- c) **ユースを対等なパートナーとして認め、教育機関の運営をより持続可能性を考慮したものへと変化させること。**教育機関は教えていることを実践し、より環境に配慮した形にすべきである。ユースは、職員と協働し、キャンパスにおけるエネルギーや食料、水、ゴミ、建物、生物多様性などの問題を含む環境問題について意思決定を行い、変革推進者となるべきである。

## 3. 教育者・トレーナー

- a) **全ての市民がESDのためのファシリテーターとなり、行動する可能性と責任を持っていると認識すること。**何十億といる人々に対して持続可能性に関する課題と機会について教えるためには、これまでの伝統的な教育機関の枠を超えた人々を教育者や指導者として巻き込む必要がある。ユース、専門家、実践者、そしてあらゆる階層・分野の市民をESDを広める教育者または指導者として動員するべきである。
- b) **ESDのトレーナーや同世代の教育者としてのユースの能力を高めること。**ユースはESDに関して同世代の仲間、両親、友人、そして地域の多くの人々にESDを広められるよう、力をつけるべきである。これには指導専門家および教育機関からの特別な配慮と支援が必要である。
- c) **ESDが扱う課題にユースが関心を持つよう、現役の教育者や指導者の能力を高めること。**教師、教育者および指導者は、ESDに関する教育の新しい手法、技術およびアプローチを学ぶ必要がある。これにはオンラインを通じたトレーニングやフォーラムの開催、ツールの開発や補助金に加え、仲間同士で学べる環境やそのための支援ネットワークなどが必要である。

## 4. ユースのための革新的な学び

- a) **教育機関と政府はユースや教育者が革新的な学びのアプローチを試みることを支援し、促進すること。**ESDは従来の教育とは異なるものである。従ってこれまでとは異なる技術を用いた試みや、創造的かつ実験的な手法が必要である。それにより型にはまった考え方を破り、ユースを教育するための最善の道を見つけることができる。
- b) **ESDを推進するにあたり、学習プロセスの効果と効率性を測るためにモニタリングと評価を行うこと。**教育機関、政府、そして教育者は異なる組織や地理的特徴において何がもっとも有効かを特定するためにESDの多様な試みを評価するための指標、枠組み、そしてプロセスを開発するべきである。
- c) **効果的な学習法のインパクトを他の地域や組織にも拡大していくこと。**効果的な学習法は、地理的環境を越え、普及させ、規模を拡大し、主流となる政策に反映するためにも特定の状況に限定するのではなく、体系化する必要がある。専用の補助金やその価値が正しく評価されること、またハイレベルな支援やリーダーシップが以上3つの提言の実現に向けた鍵となる。

## 5. 地域コミュニティ

- a) **コミュニティ主導型のESDの取り組みにおいてユースの声を尊重すること。**国際機関、政府、市民団体はコミュニティにおいてESD活動を推進する際にユースの声に耳を傾けるべきである。このために、ユースはESDに関連するコミュニティの問題とその解決策の特定、デザイン、実行に関わる必要がある。
- b) **地域コミュニティにおける若者主導のESDの取り組みを支援すること。**ESDは地域コミュニティにおける経済的成長と生態系の保護のための重要な基盤を作るものである。この潜在力を生かすためには、ユース主導のESDの取り組みに対して、教育機関、企業、市民団体や政府などからの指導と助言、そして資金援助が必要である。
- c) **ユースが現実の状況に関わり、そこから学ぶことを促進すること。**地域コミュニティはESDによってプラスの影響を受けるはずであり、学びやインスピレーションを与える場となるべきである。そのためには社会奉仕の学習や学際的な教育や研究、リビングラボやラーニングセンター、オンライン教育などを推進していく必要がある。

## 6. 持続可能性に関する課題と機会

- a) **全てのユースが持続可能性に関する課題の複雑さと不確実性、そしてそれに伴う機会について批判力をもって理解すること。**ESDに関して効果的な行動を起こしていくためには、若者たちは持続可能性に関わる問題の要因となっている、複雑に絡み合った社会文化的、経済的、技術的システムと世界の動向について理解する必要がある。
- b) **ユースが、より持続可能な未来のビジョンを作れるように支援すること。**対話と交流を促すことで、若い学び手がより持続可能な世界に向けて斬新かつ、急進的、挑戦的なビジョンを描けるよう支援する必要がある。これらのビジョンはユースが主体的に持続可能性に取り組むための刺激と論理的根拠を与えるものとなる。
- c) **学生たちに自らの生活や学校、地域や国を変革していく能力を身につけさせること。**持続可能な未来のビジョンを実現するには、ユースは自分自身や社会の持続不可能なシステムを変革するために必要な知識、スキル、そして価値観を身につける必要がある。教育者や仲間たち、そして教育機関からの支援、フィードバック、そして正当な評価は、この道りにおいて、自信とやる気を持ち、進むために必要不可欠である。

## 7. 女性や社会的に不利な立場に置かれている人々

- a) **ESDを推進する教育カリキュラムおよび政策を、社会的に不利な立場に置かれている人々の平等と公平の充実に向けたものとする。**社会的に不利な立場に置かれている人々は社会的に弱く、性別や年齢、能力、肌の色、宗教、収入、地理的出身地や性的指向といった様々な理由によって差別を受けているため、ESDの活動においても手が届きにくい。
- b) **ESDにおいて、社会的に不利な立場に置かれているグループに属するユースの価値観や経験、見方を認識すること。**社会的に不利な立場に置かれているグループに属するユースは、主流となっている教育や恵まれた学生たちにとって、ユニークで意義深い価値観や経験、ものの見方を提供してくれる場合がある。それらを共有するためには、異なる文化、宗教、世代間の対話を通じた相互理解と受容が必要である。
- c) **社会的に不利な立場に置かれているグループに属するユースが安全かつ安心して学べる身近な場を作ること。**社会的に不利な立場に置かれているグループに属するユースがESD活動に参加し、活発に行動するようになるには、いくつかの特殊な条件を満たす必要がある。そのためには、ステレオタイプのイメージを払拭し、経済的支援をすると共に、交流を演出することなどが必要である。

## 8. ソーシャル・アントレプレナーシップ (社会起業)

- a) **ESD の目的に資するソーシャル・アントレプレナーシップの重要性を認識すること。** 社会起業は、仕事を創出するほか、若者が ESD を学校以外の環境で学んだり、または自身の ESD 活動を始めたり、地域コミュニティに良い効果をもたらすことを可能にするものであり、政府や教育機関は、それに気づくべきである。
- b) **新しい社会起業の助けとなる政策や補助金を創設すること。** 社会起業を通じた ESD の促進のために、政府や金融機関は補助金や税金の控除、奨学金や指導・助言の仕組みといった、若い起業家を支援する仕組みを作る必要がある。
- c) **社会的企業を立ち上げ、経営していくために必要なユースの能力を育てること。** 教育機関や企業、そして市民団体は若い起業家に必要な知識、意識、そしてスキルを提供する必要がある。そのためには、専門のコースの開設や仲間同士のコーチング、メンタリング、起業時助成金やオフィスの提供を始めとする様々な支援が必要となる。

## ユースがユースを支援し、動員していくために

世界各地で、ユースが、彼らの住む地域や国の持続可能性の推進に対してリーダーシップを発揮し、仲間を動員する姿が増え始めている。このプロセスにおいて、若者たちは、持続可能な未来を創るためには、世界中のユースが手に手を取り合い、共にビジョンを創り、決意を示し、行動することが必要であると気づき始めている。従って、ユースがユースを支援し、動員することは、若者たちの知識、エネルギー、創造性を ESD の推進に活かす、またとない機会を提供しているのである。

ESD の若きリーダーたちは、同様の地域課題を抱え、活動している他のユースにとって勇気を与える素晴らしいロールモデルになり得る。そしてこれは、仲間同士の助言や知識やスキルの共有、そして自己表現や実践のためのオープンかつ安全なプラットフォームの創設によって可能となる。

ユースの動員を成功させるために重要な要素となるのは、いかに信頼を築き、対立を減らすかということである。国際的な異文化間の対話をユースの間で奨励することにより、友情関係を育み、交流が生まれ、文化や世代、世界観の違いを超えて相互理解や協力体制を育むことができる。ユースが多様性を機会として捉えることこそ、地域レベル、国家レベル、そして地球レベルにおける ESD の推進につながるのである。

ユース同士のエンパワメントの活動は、彼らが彼ら自身の物語を伝え、周りを巻き込んでいくことで、大胆かつ創造的なものになる可能性を秘めている。そしてこのような活動においてこそ、他のステークホルダーはパートナーとして、若者たちの創造性、熱意、ひたむきさを活かしてほしい。そうすれば、ユースによるユースのための取り組みは成長を続け、メッセージを広め、より大きなインパクトを生むことができるであろう。

私たち、世界のユースは、同世代の若者たちを支援し、巻き込んでいくことに対して責任を持って取り組んでいく。私たちの社会と環境に対して最大限に良いインパクトを生み出すために、若者たちの推進力を活用すべく全力を尽くす。そして、変革者として、今日の世界をより持続可能な未来へと変えていくために、自分たちの役割を果たしていく所存である。